

「新聞を活用して『確かな学力』と『豊かな心』を培う社会科指導」

指定校 1 年次 諏訪市立諏訪南中学校

小出覚嗣 村瀬敏行 丸山勇樹 依田恵実

I 研究の概要

1 新聞提供の環境作り

- ・新聞記事紹介コーナーや新聞のための書見台設置

「生徒の周りに新聞を」を合い言葉に環境作りを行った。新聞紹介コーナーでは職員が気になった記事を紹介した。新聞は 5 社の新聞を用意し、生徒の多くが利用する 2 階のオープンスペースに書見台を設置して、興味を持った誰もが自由に読めるようにした。



社研前の新聞紹介コーナー



職員研修で書見台作り



2 階のオープンスペースへ設置

2 新聞利用の取り組み

(1) 家庭学習による利用

- ①国語科…信濃毎日新聞「斜面」の書き取り（全学年・隔週）

- ・文の構成を学ぶとともに、漢字の正しい使い方を学ぶ。書くことに慣れていく。

- ②社会科…新聞スクラップ（3 年・毎週）

- ・地域や社会を知り、社会とつながる自分を知る。



「斜面」の書き取り



新聞スクラップのノート

(2) 授業における活用

- ①信毎読者センター山寄先生・植田先生による出前授業（新聞記事の読み方について）

- ②社会科・・・主として歴史分野・公民分野における資料としての活用



山寄先生による出前授業



植田先生による出前授業



授業の資料として新聞を活用

3 授業実践（3 学年・歴史的分野 授業者 丸山 勇樹 教諭）

(1) 単元名 現代の日本と世界

(2) 単元設定の理由

授業学級は大変活発な雰囲気を持つ 3 年生の学級である。一方で、授業で課題を与えると黙々と集中して取り組める生徒が多く、メリハリのついた生活をクラス全体で心がけている。また、この 7 月には沖縄の中学校から転入生がやって来た。

前単元では、日本の中国侵略や日中戦争について学習をしてきた。中国侵略や日中戦争の学習から、日本が国際的に孤立していったという事実を知った生徒は、日本が隣国に対しておこなってきたことを「なぜこのようなことをしたのだろうか?」「本当に日本がやったの? (信じられない)」という疑問を抱く一方で、それらのことはあくまでも過去のこととして捉えているため、現在の日本とどのようにつながっているのかを考えるには至っていないと感じた。言い換えれば「自分たちとは関係ない」と捉えているのではないか。そこで、何十年も昔のことと現在のつながりを考えるには、そのつながりを果たす有効な資料が必要であると考えた。

そこで、事前授業の際には「沖縄慰霊の日」について取り扱った新聞記事を導入に用い、そこから学習を広げていった。追究の場面では沖縄戦に関する新聞記事と資料を同時に扱い、過去に何があったのかという事実を目の当たりにし、沖縄戦が国内で唯一の地上戦であったこと、集団自決の事実、ひめゆり部隊の存在、一般市民の多くが巻き込まれて多大な犠牲を払ったことなど、沖縄戦がいかに悲惨な戦闘であったかを学んだ。「沖縄戦」という言葉こそ聞いたことはあった生徒たちだが、実際に調べてみることでその具体に触れ、現在も続く「慰霊の日」がなぜ長年続いてきたのかを考え、自分なりの言葉でまとめることができた。また、数多くの歴史と現在の社会とが、密接な関係であるということに気づくきっかけになった。

本単元でも引き続き新聞を活用しながら、新聞を読むことで過去の歴史的事象の理解にもつながることを感じさせたいと願い、本時では戦後の沖縄を取り扱った新聞記事を用いた。アメリカ統治下になった沖縄の人々の生活について学び、米軍機墜落の事故などを新聞記事を読んで知った上、沖縄の人々の気持ちに寄り添うことから「なぜ沖縄だけが?」という疑問を導き出し、その背景にある冷戦の構造や日本の安全保障に目を向けさせたいと考えた。さらに、現在まで続く米軍基地問題をとり上げ、**ただなんとなく「沖縄の人たちがかわいそう」という考えから、資料や新聞記事で得られた情報をもとに、根拠を持って自分なりの意見を構築させたいと願い**、本単元を設定した。

(3) 事前授業の様子

①導入の場面

T「総力戦になっていった日本は、戦場で戦う人たちだけでなく、国民みんなが巻き込まれていったわけだよな? 結果として、日本は戦争に勝てたの?」

HK生「いや、負けた。」

TK生「たしか、8月15日に終戦したはずだよ。」

T「そうだね。今でも8月15日が終戦記念日として、多くの国民に知られているよね。実はさあ、今日はその8月の新聞ではなく、6月24日(金)の新聞を持ってきているんだ。24日の新聞ということは、23日(木)の出来事が掲載されているよね。みんなはこの日、何していただろう?」

WK生「学校に来ていた。」

T「そうだね。平日だから、みんな学校に来ていたよね。でも、この記事を見てみよう。これは24日(金)の沖縄の新聞なんだけど…。『不戦、世代超え誓う』『慰霊の日』という見出しで、子どもたちが学校を休んで平和を祈っているんだ。」

HK生「えっ、学校に行かなくていいの?」

ここで、7月初旬に沖縄から転校してきたWH生に聞いてみた。

T「WHさん、6月23日(木)って、学校に行った?」

WH生「行っていません。みんな、学校は休みでした。」

HK生「え～、ずるい!」

T「沖縄ではこの日、学校だけではなくて、市役所などの公共機関もお休みになるんだよ。そこまでして、沖縄の人たちはこの6月23日を毎年大切にしてくれているんだよね。」

HK生「なんで?」

こうして、**学習問題「なぜ沖縄で71年間も「慰霊の日」が大切にされてきたのだろうか?」**を設定した。

②学習課題をすえて追究に入る場面

「71年前に沖縄で何があったかを調べてみよう」という学習課題をすえ、追究に入っていた。各々に学習問題に対して予想を立てていた生徒たちは「なぜ?」の疑問を持ち、配布された新聞記

事や資料をじっくりと読んでいた。資料と新聞記事は全部で6種類を用意した。配布する前に、「8分間は学習カードに記入することなく、配付された新聞記事や資料に目を通す時間」と伝えたことで、集中してじっくりと目を通す姿があった。

資料や新聞記事を読む時間を8分間と指定し、ある程度確保したことは良かった。生徒に聞いてみたところ、全てを読み終えた生徒は学級全体の半数程度であったが、少なくとも複数の資料や新聞記事に触れる時間は確保できた。

③追究の場面 前半：個人追究

資料や新聞記事をじっくりと読んだ生徒たちは、学習カードにそれぞれわかったことを記述していった。その際に、どの資料に着目したのかを明確にし、そこからわかったことを自分の言葉でまとめるように指示した。

Aの新聞記事にしばって着目し、わかったことをまとめた生徒がいた一方で、Cの資料とDの新聞記事に着目し、複数の異なる資料を絡めながらわかったことを記述した生徒もいた。

TK生の学習カードより

沖縄で71年間も「慰霊の日」が大切にされてきているのは・・・

家族が家族を殺したり、自分たちで散っていったり、今の世界ではとても考えられないようなことを引き起こすことになった戦争。政府にも「捨て石」とされて、見放されたこと、そして何よりたくさんの命が犠牲になったことが、沖縄で過去にあったということを沖縄の人や日本国民に忘れないようにすること。2度とこんなことを起こさないようにすること。

・・・という理由が考えられる。

IR生の学習カードより

沖縄で71年間も「慰霊の日」が大切にされてきているのは・・・

国家への忠誠心がすりこまれ、家族同士が殺し合う「集団自決」。そんなことが起きるまで沖縄の人は追い詰められていた。その理由は、沖縄戦では死者が多くて、住民も減り、家族同士が殺し合って、言葉では言い表せないくらいの苦しみや悲しみがあったから、このことを忘れずにあらためて考える日が必要だった

・・・という理由が考えられる。

④追究の場面 後半：仲間との関わり

学習カードにそれぞれわかったことを記述した生徒たちは、自分が記述したことを仲間同士で伝え合った。この場面は、班やグループで1人ずつ順番に発表するという形式ではなく、席を立てて自由に歩き回り、伝え合うという形式にした。班の仲間の視点だけではなく、より多くの視点に触れてほしいという願いからそのようにした。自由に立ち歩くようにしたため、生徒たちは自分とは違う資料や新聞記事に着目をした相手を探し出し、それぞれ自分なりの言葉で伝えていた。

⑤授業後の振り返り（感想）

MN生の学習カードより

かつて沖縄では沖縄戦が起り、住民も家族同士で殺し合うほどに追い詰められ、死者が多く出たことがわかった。沖縄の「慰霊の日」については、なぜそういう日があるのかを知ることができたので、このことを忘れずに生きていきたいと思った。

KM生の学習カードより

沖縄ですっと「慰霊の日」が大切にされてきたのは、戦争中の沖縄の悲劇を忘れず、二度とくり返さないように伝え続けるためだということがわかった。自分は沖縄戦のことを知らなかったので、こうやって多くの人に伝わっていくんだと思った。もっと多くの人に沖縄の過去、現在を知ってほしいと思った。

（4）本時案

①本時の主眼

サンフランシスコ平和条約後の1951年以降も、沖縄はアメリカ統治下に置かれて本土と分離されたことや、多くの米軍基地を抱えてきたことを学んだ生徒が、「どうして沖縄なのか」について資料や新聞を活用して調べ、仲間と意見を交わすことを通して、冷戦の影響や沖縄の地理的条件を知り、現在も続く米軍基地問題を多角的な視点で捉え、自分なりの考えを持つことができる。

②指導上の留意点

- ・新聞記事と資料を並行して活用し、歴史的事象が今につながっていることを理解させる。
- ・新聞記事や資料を読む時間、わかったことをまとめる時間、伝え合う時間という生徒の活動時間をしっかりと確保する。

③展開

段階	学習活動	予想される生徒の反応	教師の指導・評価	時間	資料
導入	○沖縄が戦後もアメリカ統治下に置かれていたことを確認する。 ○新聞記事から、今でも基地問題が続いていることを知る。	・「沖縄だけは日本ではなかったのか。」 ・「沖縄はアメリカの通貨なのか。」 ・「沖縄には米軍基地が沢山あるなあ。」 ・「沖縄の人々がかawaiiそうだ。」 ・「沖縄だけが背負うのはおかしい。」 ・「なぜ米軍は、今でも日本に駐留しているのだろうか？」	・資料からわかることを挙げていく。 ・生徒の新聞スクラップの感想を紹介する。	7	・写真「アメリカ統治下の沖縄」数枚 ・生徒の新聞スクラップ ・新聞記事
学習問題：多くの米軍基地を、このまま沖縄が背負って良いのだろうか？					
	○学習問題に対して、自分の意見に○をし、理由を簡潔に記入する。 ○自分の考えを発表する。	・「良くない。沖縄の人々がこんなにも苦しんでいるのだから、負担は皆で負うべきだ。」 ・「良くない。沖縄の人々だけが基地問題で苦しむのはおかしい。」 ・「どちらとも言えない。他に移すところが無いのでは？」	・生徒の考えから、学習課題を設定する。	5	・学習カード
学習課題：なぜ沖縄に基地を置いてきたのか、理由を調べよう。					
展開	○新聞記事や資料を読み、沖縄に基地が置かれてきた理由を調べる。 ○調べてみてわかった事実を全体で共有する。 ○調べたことを踏まえ、もう1度自分の考えを記述する。	・「冷戦が関係していたのか。」 ・「沖縄という場所は、軍事的な視点から重要な意味を持っていたのか。」 ・「戦時中は政府に捨て石とされた沖縄が、こんなに重要な存在になったのか。」 ・「アメリカが沖縄を戦争に利用したかったのか。」 ・「沖縄に基地が建設されてきた理由はわかるけど、それでも沖縄の人々だけが苦しむのは良くないと思う。」 ・「沖縄の人々の苦しみは伝わってくるが、沖縄という場所でなければ基地の維持は難しいような気がする。」	・新聞記事や資料を見ながら、気になったところにマーカーを引くように指示する。 ○自分が気づかなかったことは学習カードにメモをするように伝える。 【評価】 本時に学習したことを根拠に、学習問題に対する自分なりの	12 6 8	・追究用新聞記事 ・追究用資料

		・「沖縄の人々の苦しい気持ちはわかるけど、色々な事情があることがわかったので何とも言えない。」	考えを書くことができたか。		
	○自由に立ち歩いて、自分の考えを伝え合う。 ○全体の前で発表する。	・「自分の意見と共通する部分があるなあ。」 ・「自分の考えとは違う人がいるなあ。」 ・「やっぱり、みんな沖縄の人々の気持ちを大事に考えているなあ。」	・なるべく自分とは異なる意見を持つ人を探し、意見交換するように促す。	7	
終末	○感想を記入する。	・「今まで沖縄の基地問題について何も知らなかったけど、沖縄の人たちの苦しみがすごく伝わってきた。」 ・「基地反対という思いはあるけど、その基地があるおかげで平和があるような気がする。簡単には反対と言えないと思った。」 ・「戦時中に沖縄が捨て石とされてきたのは、今でも同じような気がする。それでは沖縄の人たちが気の毒すぎる」 ・「どうしていいのか、自分の中ではっきりとした答えが出ない。」	・時間があれば感想発表をするように促す。	5	

(5) 本時の流れ

①導入資料「戦後の沖縄」



右車線を走る自動車



沖縄の紙幣



「沖縄復帰」の新聞記事



沖縄の米軍基地



級友の新聞スクラップ



資料から思考・判断する生徒たち

②学習問題に対して自分の考えを記述する場面

学習問題の「多くの米軍基地を、このまま沖縄だけが背負って良いのだろうか？」に対し、まずは自分の考えを記述した。この時点で、生徒の考えは以下のように割れた。

「良い」を選択→0人 「どちらとも言えない」を選択→13人 「良くない」を選択→17人

自分の立場を示して考えを記述した生徒たちに、「そもそも、どうして沖縄でなければいけないの？」と発問し、そこから学習課題「なぜ沖縄に基地を置いてきたのか、理由を調べてみよう。」を設定した。

③追究の場面

沖縄に基地が置かれてきた理由として、アメリカが社会主義国（共産主義国）への防波堤として、沖縄が地理的に最も都合の良い場所に位置していたこと。朝鮮戦争の際にはアジアの拠点となったこと。ベトナム戦争の際には「太平洋の要石」と言われたことなどを、資料を参考にしながらまとめた。また、追加資料として琉球新報の世論調査の新聞記事を配布し、沖縄県民と本土の人々との間にある意識の違いを考えた。記事の概要は「在日米軍基地の74%が沖縄に集中していることに、沖縄県民の69%は不平等であると答えたのに対し、全国調査では33%にとどまった。」「自分が住んでいる地域に米軍基地が移設されることへの賛否では、69%が反対と答えた。沖縄の過重負担を一定程度理解していても、基地受け入れには難色を示すのが本土の民意の現実ではないか。」というもの。資料や新聞記事から情報を得た生徒は、沖縄に基地が置かれてきた理由をまとめ、その上で、再び学習問題に戻って自分の考えを記述した。

KY生の学習カードより

「多くの米軍基地を、このまま沖縄が背負って良いのだろうか」

追究前の考え：良くない。【理由】米軍基地が原因の事故が起きていて沖縄の危険が増すことになっているから。

追究後の考え：どちらとも言えない。【理由】沖縄に米軍基地が集中することはやはり良くないと思う。しかし、それを解消する代わりに自分たちの地域が危険にさらされることを反対する意見にも共感でき、結論を出すのは難しい。

KK生の学習カードより

「多くの米軍基地を、このまま沖縄が背負って良いのだろうか」

追究前の考え：良くない。【理由】公害や犯罪などが起きていて、沖縄の人々が苦しんでいるから。

追究後の考え：どちらとも言えない。【理由】始めは沖縄だけで基地を負担するのは良くないと思ったが、本土に住んでいる人たちも自分たちの県に基地があるのを好まないため、結論が出ない。お互いの考えがあるから、どちらとも言えない。

KY生の学習カードより

感想：この時間で、社会の問題には答えがひとつでないことが多いとわかった。自分も、ひとつの答えを見つけようとするのではなく、色々な面から問題を見ていきたいと思った。

SA生の学習カードより

感想：色々な意見を聞いて、どちらとも言えないとも思えるし、良くないとも思える。私は諏訪に、もし基地が来たら嫌だと思えます。けど、沖縄の人はそれをずっと味わってきたのだから、同じ国に生きているのだから、すこしぐらい分け合うべきだと思います。すごく難しいです…。

SR生の学習カードより

感想：やっぱり、色々な人の考えがあり、ひとつの答えに結びつけるのは簡単じゃないと思った。沖縄と本土の人たちの思いが両方解決できればいいなと思った。

WK生の学習カードより

感想：始めは沖縄の人がかわいそうだと思っていただけ、色々な理由があって、基地を移転していないことがわかった。諏訪に基地が来ると思うと嫌だけど、沖縄にこのまま基地があることには反対。すごく矛盾している。でも、こうやって知ることができて、考えられて良かった。

(6) 本時の成果と課題

①成果

○最後に自分の考えを記述した際、生徒の考えは以下のように割れた。

「良い」を選択→0人 「どちらとも言えない」を選択→18人 「良くない」を選択→12人

最初に自分の考えを記述した時点では「良くない」と答えていた生徒が、「どちらとも言えない」に自分の立場を変え、根拠を持って自分の考えを記述していた。また、立場が変わらなかった生徒でも資料や新聞記事に触れることで、「なんとなく」の考えから、根拠のある考えに変わっていき、自分の考えに厚みを持たせることができたのではないかな。

○基地問題を感情論だけに走って考えてしまうと、「沖縄の人々がかわいそう」で終わってしまう。
しかしながら、沖縄に基地が置かれてきたことに理由があることを知り、その理由が日本だけでなく世界の情勢と大きく関わってきたことを知ることで、歴史的事象を多角的に捉えることができたと言えるのではないか。より視点を増やせば、さらに深い考えにたどりつく可能性もある。
ただし、今回は立場を明確にして考えさせたかったので、冷戦下の背景と沖縄の人々の思い、本土の人々の思いに焦点をあてて資料を厳選した。このことが、生徒が自分の考えを構築する上で
のわかりやすい手助けになったのではないか。

○前單元も含め、新聞記事を継続して扱ってきた。本時では、沖縄の人々の思い、本土の人々の思いに、自分自身の思いを重ね合わせて考えることで、歴史的事象を「過去にあったこと」として捉えるだけではなく、過去と現在をつなげて考え、今の自分たちの生活にもつながっていることを感じられたのではないか。

②課題

- 学習課題の設定の場面では、教師の主導になってしまった。生徒の声から学習課題を設定できるように、発問や展開を練っていくことが必要と感じた。
- 自分の意見を友達に伝える際に、自由に立ち歩かせた。これは、日常の授業でも継続的に取り組んでいる。本時で言えば、なるべく自分と立場が違う人と関わってほしいという思いがあった。ただ、生徒が次々に動くので、なかなか教師が指導（考えの把握なども）しにくくなってしまう点はある。また、生徒にとってもグループで活動すれば、確実に複数人以上の考えが聞ける点を考えると、グループでの活動でも良かったのではないかと感じた。一長一短ではあるが…今後に生かしていきたい。

Ⅱ 研究のまとめ

- 1 本年度は新聞がどのように利用できるか、考えられることに取り組んだ。興味を持った誰もが自由に新聞が読めるような書見台や、新聞コーナーでの記事の紹介、各教科の授業における扱い等、身近なところに新聞がある生活に、生徒の興味や関心は高まってきているように感じる。
- 2 「社会を学び、社会とつながる」ためには、各教科の学習素材をよく吟味した上で、新聞を活用していく必要がある。生徒に新聞をどんな資料として与えていくのか、事前に教師が各紙で書かれている記事の内容を比較検討していく必要がある。

Ⅲ 次年度に向けて

- 1 事実を正確に知る、比較する、考えを持つ、発信する…、教科や学年で使える新聞活用のあり方を検討し、実践へとつないでいく。
- 2 全職員がN I E教育に関わっていくという体制づくりの推進。授業のみでなく、短学活等で新聞記事を扱うなど、気軽に紹介し合う雰囲気を作っていく。